

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果について

実施日 平成30年4月17日（火） 対象学年 6年生

1 全国学力・学習状況調査の結果

4月17日に6年生を対象として実施された全国学力・学習状況調査（国語A・B、算数A・B、理科、質問紙）の結果が送られてきましたのでお知らせします。なお、6年生には、個票を配付しています。
Aは主として「知識」に関する問題で、Bは主として「活用」に関する問題です。

1) 教科（国語A・B、算数A・B、理科）に関する調査結果（平均正答数） 児童数 54名

	国語A 12問	国語B 8問	算数A 14問	算数B 10問	理科 16問
若基小学校	8.0問	3.9問	8.6問	5.1問	9.2問
佐賀県	8.5問	4.3問	8.8問	5.1問	9.7問
全国	8.5問	4.4問	8.9問	5.1問	9.6問

2) 教科ごとのポイント(○)と手だて(◆)

【国語】

- 無回答率が全体的に県平均より低く、自分の考えを何とか表現しようとする意欲は高い。
- 話す・聞く及び知識・理解・技能の観点の正答率は、県平均よりわずかに下回っているが、いずれもおおむね達成の域には到達しています。一方で、書く及び読む観点では、県の平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆授業の中で、協議や討論のモデルを示して話し方や聞き方について理解をさせたり、相手の発言を受けて話す場を意図的に設定したりするなどの手立てが必要と考えます。
- 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる」ことに関する問題については、県平均を15ポイント程度下回っています。また、「文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことに関する問題では、県平均を16ポイント程度下回っています。
- ◆書いた文章を児童がお互いに読み合って表現の仕方について助言し合ったり、よいところを見つけて感想を交流し合ったりする活動を設定し、表現する力を高めていく必要があると考えます。
- ◆全体的な傾向を受けて、授業の中で、文章の中から、内容を言い表す「キーワード」を見つけたり、段落に小見出しをつけたりするなど、要点や要旨をまとめるための手立てを取り入れています。

【算数】

- 無回答率が全体的に県平均より低く、自分の考えを何とか表現しようとする意欲は高い。
- 計算を確実に行う・角の大きさを正確に求めるなど、技能の観点は、県の平均を上回っており、一方で、考え方及び知識・理解の観点は、県平均をわずかに下回っています。
- 「単位量あたり大きさ」に関する問題での正答率が、県平均より17ポイント程度下回っています。
- ◆単位量あたり大きさ」に関連する授業や家庭学習を通して5年次の復習を十分に行い、習得させる必要があります。
- 活用に関する問題も、選択式や短答式では割合高い正答率ですが、記述式の問題となると個人差が大きく、全体としては正答率が低い傾向にあります。
- ◆数直線を書いたり、図に表したりしたことを、言葉で表現する練習を繰り返し行うなどの手立てが継続的に必要であります。
- ◆示された情報を丁寧に解釈したり、グラフや資料を読み取って気付きを客観的に表したりする場を授業の中で意図的に設定し、事実や考えを表す方法や手段を習得させ、表現する力を高めていきます。

【理科】

- 無回答率が全体的に県平均より低く、自分の考えを何とか表現しようとする意欲は高い。
- 知識・理解の観点は、十分達成を5ポイント以上上回っており、理科に関する基礎的な内容事項を習得している児童がほとんどです。一方で、思考・表現の観点は、おおむね達成を5ポイント程下回っています。

○「実験結果を分析して考察した内容を記述する」ことに関する問題で、県平均より18ポイント程度下回り、「予想を基に結果を見通して実験を構想する」ことに関する問題で、県平均より25ポイント程度下回っています。

◆授業の中で、実験の流れを全体で確認して、全員が確実に表現できるようにしたり、結果や考察を科学的な用語を使って客観的に表せるようなワークシートを工夫したりする手立てを取り入れていきます。

3) 児童質問紙結果(○)とその対応(◆)

① 授業に対する関心、理解、有用性について

○「各教科の勉強は好きですか」「各教科の勉強は大切だと思いますか」「各教科の授業の内容はよく分かりますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合は、80～90%超となっており、高い水準を維持しています。この結果は、教師が指導改善について日々向き合い、児童の実態に即した取組を続けていることが考えられます。

◆今後、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、さらに授業改善を行うことが、授業に対する関心、理解、有用性を高めることにつながり、「算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えますか(肯定的回答63%)」「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか(肯定的回答22%)」といった問いへの肯定的な意見につながると考えています。

② 学校での学習について

○「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対して肯定的に回答した児童の割合は、80～90%超となっています。これは、自分の考えを多様に表現したり、友達と考えを共有したりする活動の積み上げの成果であり、表現力の高まりを児童自身も実感していることの現れであると考えます。

また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか」という問いに対して肯定的に回答している児童の割合は、8割程度で概ね良好であります。

◆主体的で対話的な学びへのつながりを意識した授業づくりへの取組を今後も続けていきます。

③ 家庭での学習について

○「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という問いに対して、「全くしていない」が16.7%と高く、また、「学校の授業以外に、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」という問いに対して、「全くしない」が7.4%という結果です。

◆家庭学習については、その習慣を早い段階から身につけておくことが必要で、そのためには家庭と連携した指導が不可欠です。日頃の通信での啓発や家庭学習強化週間での取組を継続して行っていかなければならないと考えています。また、知識や技能等が身についたかどうかについては、取組後の評価(点検)が大切で、やりっ放しにならないよう、宿題の目的を改めて学校・家庭・児童で共通理解することによって、家庭学習の取組の充実を図っていきます。

④ 学校生活、家庭生活について

○「放課後・週末に何をして過ごすことが多いですか」という問いに対して、「テレビ・DVD・ゲーム・インターネット」と解答している児童が80～85%(複数回答可)となっており、他の項目(勉強や読書、スポーツ、習い事、地域の活動)などに比べて圧倒的に多い。

◆スマートフォンなどの通信機器を使っている事例もあるので、家庭との連携を一層図るとともに、時間の使い方や放課後の過ごし方などを指導していく必要があると考えます。

○一方、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(肯定的回答98%)」「人の役に立つ人間になりたいと思いませんか(肯定的回答98%)」という問いに対しては、肯定的な回答が顕著であり、人間関係を円滑に築いていきたいという思いをもって生活している児童が多くいることがうかがえます。また、「将来の夢や目標を持っていますか(肯定的回答87%)」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いませんか(肯定的回答93%)」という問いに対しては、肯定的な回答が多く、自分自身への期待感や肯定感をもっている児童が増えていることが感じられます。